

かまはし

発行 地域力推進蒲田西地区委員会
編集 地域情報紙編集委員会

第70号

わがまちの顔

舞台に魅せられて

かわい やすひろ
川井 康弘 さん



劇団「俳優座」は、千田是也代表の元、創立七十四年の老舗劇団で、名だたる俳優は、数知れず：その「俳優座」で三十年間、活躍していらつしやる川井康弘さんに登場していただきます。川井さんは、昭和四十二年生まれ。お父様の赴任先の仙台市で育ち、剣道部とサッカー部に所属するスポーツ少年でした。

中学三年生の時、東京に転校。その時の担任の女先生が演劇部の顧問で、「下町だから男子部員がいないの。川井君は、声も体も大きいから、文化祭の舞台に助っ人で出てくれない？」と頼まれ、「夕鶴」の与ひよう役で出演する事に。この稽古中に名女優、山本安英さんに出会い、衝撃の言葉をいただき

ます。「大切な人を失った悲しみや苦しみは、貴方の体を通してしか表現できないの。演技は要らない。嘘をつかないでね」と。初めて、客席から拍手を受けた興奮が後々に繋がったのかも：とは、ご本人の分析。

その後、都立小岩高校に入学(大竹しのぶさん母校)。あるきっかけから、映画のオーディションに合格。プロダクションに所属し、演劇部にも入部。学業と芸能活動を両立させながら卒業。芸術大学の受験に失敗。ニューヨークにダンス留学します。アクターズスクールで学んでいましたが、「演技理論は、ちゃんと日本で勉強して、理解してから戻っていらつしやい」と学校長のマナーサー・グレーム女士に勧められて帰国。再度、桐朋学園短期大学演劇専攻(旧・俳優座養成所)を受験し合格。しかし、同級生六十名に対し、俳優座に合格出来るのは二、三名のみ。卒業公演で主役を勝ち取り、演技理論の基礎も学び、見事入団しました。さらに入団後には、研究生二年間、準劇団員三年間、毎年査定があり、舞台に出演する傍ら、スタッフや雑用の修業。五年後、晴れて劇団員として認められた大役は、栗原小卷さんの相手役としての抜擢でした。近年では「蟹工船」「いのちの渚」などで主役を務めています。初舞台以降は、俳優座のみならず、音楽劇、ミュージカル、演劇講師、ナレーター、企業研修講師、司会など多岐に渡って活動されています。(昨年は日本工学院蒲田校で講師をしていました。)

プライベートでは、ミュージカル初出演の「トラップ一家物語」1(サウンド・オブ・ミュージック)で主演した元劇団「四季」の女優、堂ノ脇恭子さんと二十一年前にご結婚され、東矢口二丁目の実家近くに住んでおられました。平成二十九年五月には、手塚治虫原作によるミュージカル「ブッダ」がアプリコホールで上演。語り部の役で出演し、地元での開催という事で、大きな反響を呼びました。「蒲田の地で、芝居が出来る事の幸せと、責任を感じています」と川井さん。これからも私達に楽しい舞台を届けて下さい。

(取材 佐藤・近藤・高橋委員)

旧区民センターのピアノが ミャンマーへ

本年三月末日に閉館した、旧大田区民センター（新蒲田一丁目）。その音楽ホールで長年親しまれてきたグランドピアノ二台が、ミャンマー連邦共和国の国立交響楽団に寄贈されました。ミャンマーは、今クラシック音楽の黎明期にあり、これらのピアノを通じて、同国の文化振興及び音楽水準の向上に寄与しようというものです。

「この機会にミャンマーとの絆をより深め、『国際都市おおた』を更に推進していきたい」と松原区長は語っています。



協定書を持つ松原区長とキン・ニラ・ソー
参事官 左は山本祐ノ介氏

寄贈協定締結式

去る六月八日（金）、大田区役所庁議室で、このピアノの寄贈協定締結式が行われました。

大田区側から松原忠義（区長）、清水耕次（副区長）、小泉貴一（地域力推進部長）の三氏、ミャンマー側からはキン・ニラ・ソー（駐日ミャンマー大使館公使参事官）、山本祐ノ介（ミャンマー国立交響楽団音楽ディレクター）、小山西子（ピアニスト）の三氏が出席。さらに、大田区ハイドン室内管弦楽団関係者（横山宗夫顧問、吉川武夫後援会長、宮崎豊団員、水越千代子団員）及び蒲田西特別出張所（荒浪明子所長）が立会いました。

寄贈協定締結式出席者



協定書には、ミャンマー連邦共和国の代表者として国立交響楽団理事長のサインが予め現地ですれており、この日は、松原区長と同楽団の代理輸送コーディネーターを務める山本氏が署名し、キン・ニラ・ソー、松原、山本各氏からそれぞれの立場でスピーチがありました。

ミャンマーと山本氏

かつて太平洋戦争の戦場にもなり、竹山道雄の作品「ビルマの豎

琴」でも知られているように、旧称はビルマでした。現在、ミャンマー連邦共和国。人口約五〇〇万、首都はネピドー。ビルマ族ほかの多民族国家です。

ピアノの寄贈先である国立交響楽団は二〇〇一年の設立。政治情勢から活動は二〇〇四年に停止状態となり、二〇一二年になって再開され、翌年、山本祐ノ介夫妻が指導者として招かれたのです。

※ 山本祐ノ介氏（一九六三—）は東京芸大を経て同大学院修了、チェリスト、指揮者、作・編曲家として著名です。故山本直純氏の二男で、夫人はピアニストの小山西子氏。

その山本氏によると、楽団に接した初めはびっくり。ピアノを開けたらカビが舞いあがり、金管楽器の隙間から音が漏れていた。クラシックの譜面を読めない団員もいたとか。…でも今は楽団員の技術も向上し、観客を楽しませたいというプロ意識は誰にも負けないとコメントされています。

寄贈に至る経緯 ①

「わが町、聴衆と共に歩む」がモットーの大田区ハイドン室内管弦楽団（本紙第三二号参照）は三一年の歴史をもち、区民センター音楽ホールの演奏会でもおなじみで

した。山本直純作曲（山本祐ノ介編曲）「寅さんファンタジー」やベートーベンの交響曲七番など、山本祐ノ介氏の指揮・指導を仰いできました。

一方で山本夫妻は、ミャンマー国立交響楽団の音楽ディレクターとして熱心に活動中ですが、依然として十分な楽器には恵まれず、ことにコンサート用のグランドピアノに窮余している楽団の現状をたまたま「世間話として」ハイドンの宮崎豊団員「前出」に漏らされたのだそうです。

寄贈に至る経緯②

その話が区民センターの閉館とかさなり、検討中であつた二台のグランドピアノの活用先として、ミャンマー国立交響楽団が浮上したのです。

そして、大田区ハイドン室内管弦楽団及び同後援会の方々が仲介役となつて、今回の寄贈が実現したという次第です。

なお、寄贈に先立ち、山本夫妻は区民センターの音楽ホールを訪ね、ステージで二台のピアノを演奏。ピアノはそれぞれ個性のある音色をもち、維持管理の良さから素晴らしいコンサートピアノであるとの評価を下されています。



さよなら音楽ホール

旧区民センターの音楽専用ホールは全国的にも珍しい存在で、プロ・アマを問わず、その音響の良さで愛されてきました。

今も「かまにしコンサート」の実行委員長を務める加藤公子氏は、次のように述べています。

「私たちの「みちづかコーラス」は平成一五年から「みちづかジョイントコンサート」で五回、「かまにしコンサート」で一〇回、都合一五年にわたつて、このホールで歌ってきました。お世話になつたあのピアノが、ミャンマーに渡ると聞いてホツとしています。い



つの日か、かの国から喜びの便りが届くことを願いつつ、あの素晴らしいピアノの音色を、そつと心にしまいました……」

また、混声合唱団GYCの青木亮氏は、このピアノとは「中学生のころに出会い、以来三〇年間変わらぬそこにあつた」と愛惜の情を寄せていました。

〔注〕寄贈協定締結式に関する資料は蒲田西特別出張所の提供によります。

（取材 山口委員）

（上） 寄贈されたピアノ

- ①フルコンサートグランドピアノ(ヤマハ製CF111)
- ②セミコンサートグランドピアノ(日本楽器・現ヤマハ製CS)

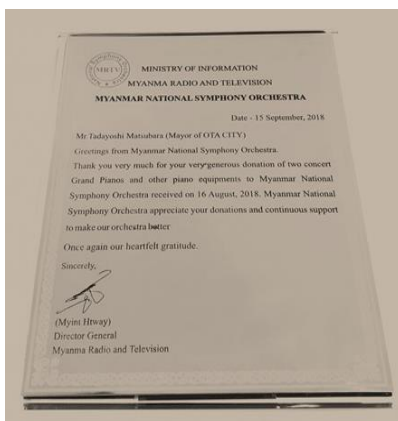
他に、ピアノ用椅子2脚、スツール1脚、ピアノリフター1台が添えられた。

（下） プレート ピアノの内側に取り付けられた。

（左） ミャンマーからの礼状 ミャンマー国立交響楽団の上部組織＝ミャンマー国立放送のゼネラルディレクター名、松原区長あての礼状。9月15日付、プレートに印字されている。

わが交響楽団を向上させるための寛大なご寄付、そして絶え間ないご支援に感謝する旨が記され、次の一文で終わっている。

Once again our heartfelt gratitude.



ご存知ですか？

映画『お早よう』

映画『お早よう』とは

小津安二郎（一九〇三—一九六三）による一九五九（昭和三四）年の松竹映画で、監督五〇作目です。

一九五八年一〇月、東京物語』がロンドン映画祭でサザールランド賞を受賞。一月、小津監督は映画人として初めて紫綬褒章を受け、翌年一月に日本芸術院賞を受賞。

名実ともに映画界の重鎮となった直後に小津監督が選んだのは郊外の新興住宅地を舞台に元氣な子供たちによりまわされる大人たちをコメディタッチで描いた『お早よう』でした。

本作で子供たちがオナラ遊びをする場面が出てきますが、「オナラ」を使うギャグは、小津監督がサイレントの時代から温めていたアイデアだそうです。一九五九（昭和三四）年一月にロケハン、二月から四月まで撮影、五月に公開された、小津監督二本目のカラー作品です。DVDで全編鑑賞できますし、一部であればユーチューブで

も観ることができます。
あらすじ

郊外の住宅では、長屋のように数軒の家族が隣り合って暮らしています。林家の息子の実と勇は、テレビがほしいと両親にねだりますが聞いてもらえません。子供たちは、テレビを買ってもらえるまで口をきかないというストライキをして、ついに買ってもらうのでした。



お父さんは笠智衆さん、お母さんは三宅邦子さんで



多摩川土手で兄(実:左から2人目)と弟(勇:左)

ご覧いただきたい所は

ドラマも面白く昭和三〇年代の雰囲気があると懐かしいですが、皆様にぜひ観ていただきたいのは、舞台となつて矢口渡駅か武蔵新田駅から多摩川土手に向かつて土手の手前にある設定の住宅と、土手を歩いて通学する子供たちの背景に、今も私たちが多摩川に行くことと見ることが出来る旧ラジオ関東（現オールエフ・ラジオ日本）電波塔等の風景が映りこんでいる所です。兄弟が警官に見つかる水門は今もそのままです。お楽しみください。

（取材 大良委員）

蒲田西特別出張所管内

人口	男	32,282人
	女	29,945人
	計	62,227人
世帯	35,350世帯	

平成30年 11月1日現在

所

大田区西蒲田七一一一

事務局 蒲田西特別出張所
「がまにし17」をお読みいただき、ありがとうございます。
情報紙に対するご意見やご感想、または投稿などございましたら、お気軽に事務局までお寄せください。